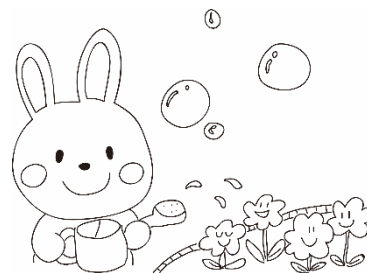


③ 急性糸球体腎炎



〜〜〜 どんな病気？ 〜〜〜

もともと健康な子どもに突然血尿・蛋白尿が出はじめます。

ようけつせいいん さきゅうきん 溶血性連鎖球菌感染症後に起きる^{ようれんきんかんせんご} 溶連菌感染後急性糸球体腎炎が代表的です。感染症にかかってから2週間程度たったところに腎炎を発症します。年間10万人あたり2-3人の子どもでおこり、4-10歳の男児に多くみられます。

〜〜〜 どんな症状が起こるの？ 〜〜〜

むくみ、尿量の減少、食欲不振、高血圧による頭痛、嘔吐などがあります。血尿や蛋白尿の程度・合併する症状の程度はさまざまです。重症の場合、高血圧によりけいれんをおこしたり、腎機能が低下することもあります。発症した最初は入院治療が必要になります。

〜〜〜 どんな治療をするの？ 〜〜〜

①生活管理

むくみや尿量の減少、高血圧、肉眼でみてわかるような血尿など、重い症状がみられる間は入院し、ベッドの上で過ごすようにします。全身状態がよくなり、血圧が正常になり、蛋白尿や血尿が減ってきたら少しずつ病棟内を歩けるようになります。体を動かしはじめて血圧が高くなったり、尿検査の結果が悪くなるようなら、なお安静が必要になります。

わずかに蛋白尿や血尿が残っても退院し、自宅で様子を見ることができます。退院した後は管理指導表やその目安に従って徐々に運動を再開します。

②食事療法

入院してすぐの時期には塩分、蛋白質と水分量の制限をします。尿量が増えてむくみがとれ、血圧が正常になったら、いつもの食事にしていきます。

〜〜〜 治る病気なの？ 〜〜〜

数週間の入院治療で、多くの場合蛋白尿や血尿はなくなり、多くは数カ月以内に治ります。将来的に腎臓にダメージを残すことは極めてまれです。一部の重症例では、一時的に透析療法が必要になることもありますが、そのまま透析を続けなければならないことは、まずありません。発症して2カ月程度経過しても検査の結果がよくなる場合には、慢性糸球体腎炎の可能性があるので、より詳しい検査が必要になります。